

## 第2回データ連携SWG

### 前回議論の論点整理

2017年3月15日

株式会社三菱総合研究所

1

MRI

株式会社三菱総合研究所

## 論点整理(1)

第1回の議論にて、検討対象および検討方向性に関してご意見・ご指摘は、以下表の通り。

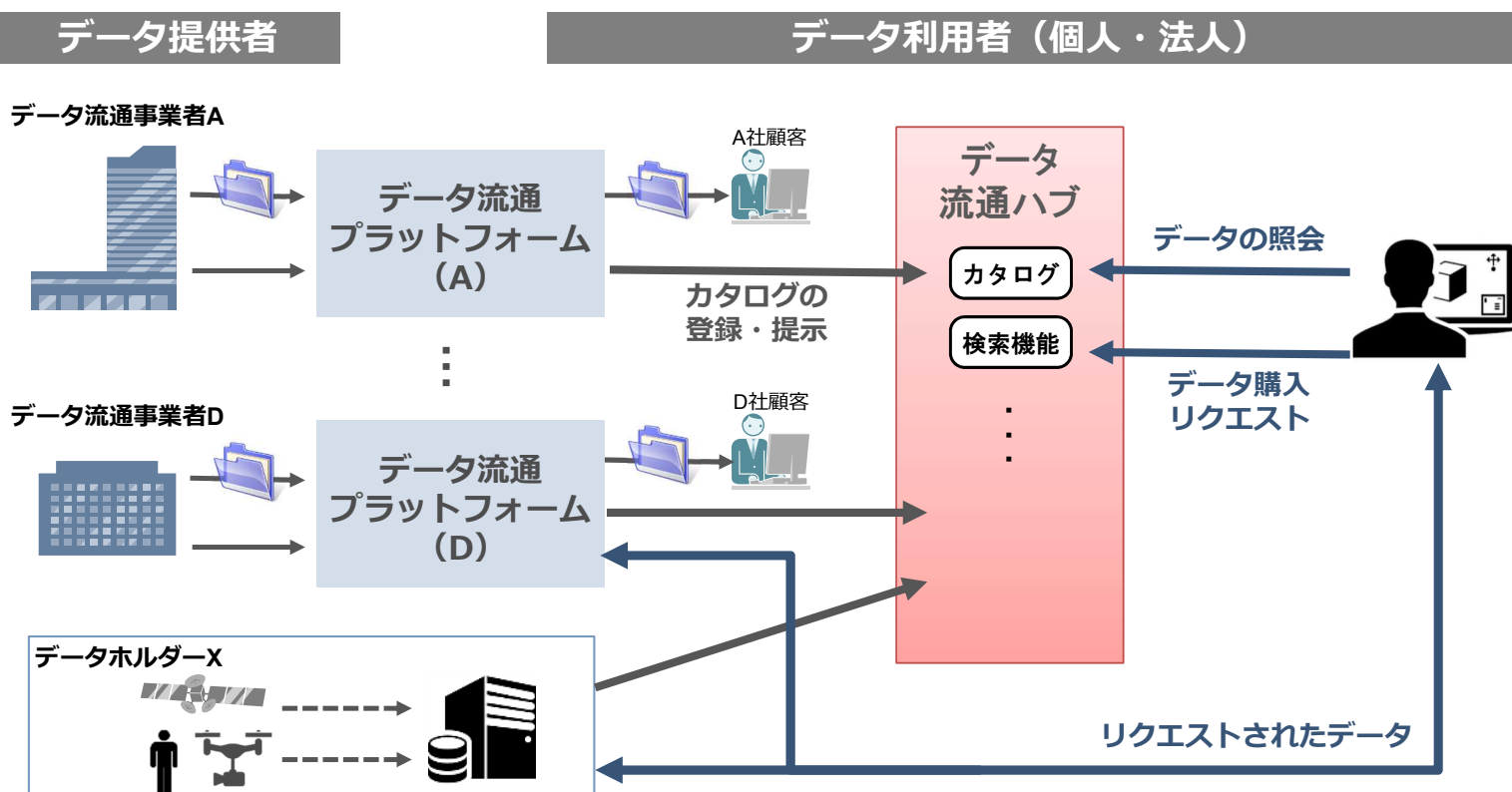
観点	主な意見	事務局整理(案)
流通ハブに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社内の取引は、証券取引所と同じ形だと考えている。個々のデータは保有せずにマッチング等の実施に徹している。(エブリセンス)</li> <li>● データを取引する「場」の提供ではないか。(大澤)</li> <li>● 上位レイヤにおいて、誰がどのようなデータをどこに持っているかが分かる仮想的な機能と考えている。(METI)</li> <li>● ハブ1か所にデータを集めるようなものなのか。日経新聞の市況みたいなものか(エブリセンス)</li> <li>● 他社のデータを組み合わせなければデータの利活用が進まないと考えている。そのため、センサデータに限らず、業界を超えたデータ収集・流通が必要であると考えている。(オムロン)</li> <li>● 複数のデータを用いて価値を創出する、データを加工することは流通ハブに必要な機能なのか。データを集めるヒトと利活用しているヒトを結び付けることだけでいいのではないか。個人情報が必要ない場合には加工したデータを出して欲しい。(NTT)</li> <li>● POSデータなど従来から販売されているデータは、相対で既に取りされている。ダイナミックに付加価値を提供できていないのが課題である。データ取引所が複数立ち上がりつつことを踏まえ、互換性を持ったハブを作る取組はよいが、まずは業界を盛り上げていくことが必要(日本データ取引所)</li> <li>● データ取引市場に関して、法制度等を作るのは時期少々である。市場を活性化させることが先決である。データの提供・流通に対して、事業者の抵抗感がまだ存在する。(エブリセンス)</li> <li>● データ流通活性化に向けた課題を整理することが必要。どこにデータ流通のボトルネックがあるのかを整理する必要がある(NEC)</li> <li>● 貯めているデータをどのように流通させるかを検討する必要がある。業務直結型のデータマーケットの創出から始めることがまず必要ではないか。(DNP)</li> <li>● プレイヤー毎にハブに求められる機能を整理することが望ましい。(NSSOL)</li> </ul>	<p>流通ハブとしては、データ利用者からデータの入手方法、使い方等に関して支援が受けられる仕組み(カタログ等)にニーズがあるのではないか。 → ガイドブック3章</p> <p>取引市場だけではなく、そもそもデータ流通活性化のための方策が必要ではないか。 → ガイドブック 4章</p> <p>データ提供側に抵抗感があるので、阻害要因を整理する必要があるのではないか。</p>

## 論点整理(2)

観点	主な意見	整理
カタログ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どのような形でユースケースを含めるべきかを検討すべき。(イトーキ)</li> <li>● データを活用してもらうためにはユースケース等を示して、リッチ化を図る必要がある。ターゲットを決めて、一部の分野からでも先行的に進めていくことが望ましい。(インテージ)</li> <li>● ユースケースには必要条件を記載すべき。インターフェース等の設計も重要なポイント</li> <li>● 上位レイヤと下位レイヤをつなぐものがカタログではないか。(大澤)</li> <li>● どのようなセンサがどこにあるかが分かるようにしたい。(オムロン)</li> <li>● カatalog整備にはデファクトのCKANを活用すればよいのではないか。安心してデータを活用する観点から、提供者の品質、可視化の仕組みが必要ではないか。公的な認証の活用も必要ではないか。(日立)</li> <li>● 自社で集めたデータを売れないかという相談がある。誰がどのようなデータを保有しているかを可視化することが望ましい。(さくらインターネット)</li> <li>● 市場に流れるデータが非常に多様なので、データカタログの共通化を図る場合は、最大公約数にせざるを得ない。大切なのは、市場に提供された商品を識別することである(大向)</li> </ul>	データがどこにあるかを示すカタログ、および、ユースケースやデータの使い方を示したカタログが想定できるのではないか。
API	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データ分析はノウハウの塊であるため、オープンにすることは抵抗を感じる。相互接続するために最低限共有すべきラインを作成することが重要である。どことどこ間のインターフェースなのか、APIに関する検討は、オープンな場で検討することが望ましい。(エブリセンス)</li> </ul>	下位レイヤでの相互接続のためのAPIを議論の対象とする
流通するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生のデータなのか、意味を持つ情報なのか、どのように活用するか示した(データ・情報を調理するための)レシピなのか(エブリセンス)</li> <li>● データジャケット(≒メタデータ)を交換する仕組みを検討している。データジャケットの特徴としては、人が読むためのメタデータであること。データが持つ情報をやり取りする。データの提供・流通に対して、事業者の抵抗感がまだ存在すると感じている。(大澤)</li> </ul>	生データを扱えるような共通するメタデータ項目の事務局案をガイドブック(案)に示す。
議論の対象	(上位) サービスレイヤ、データの集約・加工レイヤ (下位) 生データの流通、構造 にわけて議論すべき(複数意見)	ガイドブック(案)に事務局案を示す。

## 参考) データ連携SWGが目指すデータ流通市場

## 各々のプラットフォーム間を連携したデータ流通市場



# 検討対象

- データ利用者がデータを利活用しやすいデータ流通プラットフォームの構築に向けて、データ流通事業者やデータホルダーの相互連携・運用において求められる最低限の共通ルールを規定する。
- 主に相互連携やデータ利用者とデータ提供者間のインターフェースを対象としている。
- データ流通プラットフォーム間の相互運用性(インターオペラビリティ)を実現し、データ流通市場活性化に向けた市場環境の整備を目的とする。

